

(2019) 『手話学研究』 28: xx-xx.

〈原著論文〉

『手話学研究』原稿執筆ガイドライン

原稿の体裁について

手話 花子^{1,*} 指文字 太郎²

¹ 日本手話学会理事会 ² 日本手話学会事務局 * Corresponding Author

「原稿執筆ガイドライン」（2019年7月1日改訂）は『手話学研究』原稿の体裁（仕様）を定めたものです。手話学の学際的性格に鑑み、本ガイドラインで定めた体裁を絶対的なものとはしませんが、弊会編集委員会および事務局の負担を緩和するためにも、著者一同のご理解およびご協力のほどお願い申し上げます。なお、本ガイドラインの書式自体は執筆ガイドラインに従って記されていますので、執筆例の参考にしてください。（日本手話学会 編集委員会）

Keywords：手話、空書、指文字、指数字、非手指動作

1. 原稿の体裁および分量

mm、10ポイント、中央揃え。

1.1 保存形式

投稿原稿はMS Word形式で保存されたファイル（拡張子docx）を用いる。また、学会ホームページに掲載されている投稿用MS Wordテンプレートの利用を推薦する。

1.4 チェック

「段落」「インデントと行間隔」にある「行頭の記号を1/2の幅にする」をチェックする。

游明朝および游ゴシックを用いるときは、「段落」「インデントと行間隔」にある「1ページの行数を指定時に文字を行グリッド線にあわせる」のチェックをはずす。

1.2 分量上限

原稿の分量上限は、下記の体裁に従ったうえで、下記の通りとする。(1) 原著論文 20 ページ、(2) Forum 10 ページ、(3) 書評 5 ページ (4) 総説 20 ページ。

2. 原稿の構成

研究論文、Forum、総説の原稿は、種別、表題1、副題1、氏名1、所属1、要旨1、keywords1、本文、参考文献、表題2、副題2、氏名2、所属2、要旨2、keywords2、の順に記す。本文が日本語の時は表題1、副題1、氏名1、所属1、要旨1、keywords1は日本語、表題2、副題2、氏名2、所属2、要旨2、keywords2は英文とする。

1.3 サイズ、余白、ヘッダ、および、フッタ

原稿のサイズはA4とする。原稿の余白は下記の通りとする。上25mm、下25mm、左25mm、右25mm。ヘッダおよびフッタの設定は下記の通りとする。(1) ヘッダ：端からの距離10mm、10ポイント 中央揃え、(2) フッタ：端からの距離10

書評の原稿は種別、表題、副題、執筆者氏名、

所属、要旨、keywords、本文、参考文献、表題 2、副題 2、氏名 2、所属 2、要旨 2、の順に記す。ただし、表題 2、副題 2、氏名 2、所属 2、要旨 2、keywords 2 は原稿の最後に記す。

3. 原稿の仕様

3.1 書誌情報、種別、表題、氏名、所属

書誌情報、種別、表題、副題、氏名、所属は、1 段組、行間 1 行で記す。

書誌情報は冒頭の行に左詰め、MS 明朝、10 ポイントで記す(欧文の場合は Times New Roman)。種別は左詰め、MS ゴシック、10 ポイントで記す(欧文の場合は Arial)。表題は左詰め、HGP 創英角ゴシック UB、左詰め、20 ポイントで記す。副題がある場合は、表題の次の行に左詰め、MS ゴシック、左詰め、12 ポイントで記す。

空白の 1 行を加え、氏名、所属などを記す。著者氏名は左詰め、MS 明朝、12 ポイントで記す。姓と名の間は半角空けにする。所属は左詰め、MS 明朝、10 ポイントで記す。連名の場合は氏名の間は全角 1 字空けにする。ラテン文字表記同士の間の場合は 2 文字空けにする。連名の所属が異なる場合、氏名の語尾にアラビア数字、上付きで記し、所属を記した行でそれぞれの所属の語頭にアラビア数字を記す。Corresponding Author は、Corresponding Author である氏名の語尾に「*」、上付きで記し、所属を記した行の最後に「* Corresponding Author」と記す。書誌情報および所属の下の行には枠線を挿入する。所属の下の枠線に空白の 1 行を加える。

3.2 要旨、key words

要旨、keywords は、1 段組、行間 1 行で記す。要旨は MS 明朝ないし Times New Roman、10 ポイントで記す。要旨の分量上限は日本語の場合は 20 行、英文の場合は 30 行とする。要旨の次に空白の 1 行を加え、次の行に keywords を左詰め、MS 明朝ないし Times New Roman、10 ポイントで

記す。ただし、keywords は 5 語以内とする。Keywords の次に空白の 2 行を加える。

3.2 本文

本文および参考文献は 2 段組、行間 1 行で記す。本文は両端揃え、MS 明朝、10 ポイントで記す。句読点は原則として「、」と「。」を用いる。ただし、日欧混在文等においては適宜、「、」ないし「.」（半角）を用いることができる(英文の場合は [,].[.])。

本文の章名は両端揃え、MS ゴシック、10 ポイントとする。章名の次に空白の 1 行を加える。章より小さな項目の見出しは両端揃え、MS ゴシック、10 ポイントで記す。章より小さな項目の見出しの次に空白の行は置かないものとする。

文献関連情報は本文中に記す。記すときは、原則として著者姓(西暦刊行年：該当ページ)の形式を用いる。(例)山田(1930:135)は～(例)～(Jakobson 1942:54-58)。

下記の機能は使用しない。(1)インデントの自動設定機能を使用しない。(2)箇条書きの自動設定機能を使用しない。(3)段落番号の自動設定機能を使用しない。

最初の投稿のときは、本文中や脚注において著者が特定され得るような表現は避ける。

3.3 注

注(脚注)は MS Word の脚注機能を用いる。脚注は行間 1 行、両端揃え、MS 明朝、8 ポイントで記す。本文中に加える注の位置はアラビア数字で記す(括弧は加えないものとする)。

ただし、脚注に不都合がある場合には、文末注の仕様にする事ができる(ただし、MS Word の文末脚注機能は用いないものとする)。本文の次に空白の 1 行を加えた後、文末注の章名を両端揃え、MS ゴシック、10 ポイントで記し、さらに次の行より両端揃え、ぶら下げ 1 字、MS 明朝、9 ポイントで記す。

3.4 参考文献

参考文献の章名「参考文献」を両端揃え、MS ゴシック、10 ポイントで記す。空白の 1 行を加える。参考文献は両端揃え、ぶら下げ 1 字、MS 明朝、9 ポイントで記す。参考文献は著者名、発行年、題名、出版社（欧文の場合はその前に出版社所在地都市名を併記）の順に、欧文の書名はイタリック体で記す。さらに著者の姓のローマ字順に記す。ただし、参考文献の記述仕様は著者が慣れ親しんでいるもので差し支えないものとする。（例）

Language, Sign, 2000, *Japanese Sign Language*,
Kyoto: Nihon Shuwa Gakkai. (=2020, 手話花子
訳『日本手話』日本手話出版社)
手話花子, 2000, 「日本手話」指文字太郎・非手指
動作三郎『日本手話』日本手話出版社, 10–80.
Shuwa, Hanako, 2000, “Japanese Sign Language,”
Japanese Sign Language Japan, 30(1): 10–30.
指数字四郎, 2020, 「指数字と指文字」『手話学研
究』1(1): 1–10.

4. 図

図は本文中の適当なところに置き、図それぞれに一連番号、題、および説明文をつける。一連番号および題は図の下に、両端揃え、MS ゴシック、10 ポイントで記す。説明文は題に 1 字空けで続け、両端揃え、MS 明朝、10 ポイントで記す。

5. 表

表は本文中の適当なところに置き、表それぞれに一連番号、題、説明文をつける。一連番号および題は表の上に、両端揃え、MS ゴシック、10 ポイントで記す。説明文は、表の下に両端揃え、MS 明朝、10 ポイントで記す。

6. 謝辞

謝辞は最終版のときに加えることができる。謝辞の仕様は本文（ないし文末注）の次に、空白の一行を加え、参考文献の章と同じように記す。

Writing Guidelines

General Principles and Rules

SHUWA Hanako^{1,*} YUBIMOJI Taro²

¹ Council of JASLS ² Office of JASLS * Corresponding Author

Abstract

Keywords:

(2019 年 6 月 30 日受付)

(2019 年 7 月 1 日採択)